

【C年^{ねん}】

聖靈降臨後第八主日^{せいれいこうりんごだい しゅじつ}

特定十三^{とくてい}

憐れみ深い全能の神よ、^{あわれみ ぶかい ぜんんのう}み民がまことと賛美の礼拝を献げら^{たみ さんび れいはい}れるのは、ただあなたの恵みによります。^{めぐ}どうかこの世にお^よいて忠実に主に仕え、^{ちゅうじつ しゅつか}ひたすら主の約束を望み、^{しゅのそく のぞ}ついにみ前に至ることができますように、^{いた}主イエス・キリストのいさお^{しゅ}によってお願いいたします。^{ねが}アーメン

司祭 「聖書のみ言葉を聞きましょう」^{せいしょ ことば}

会衆は着席する。

旧約聖書^{きゅうやくせいしょ}

朗読者 「旧約聖書はコヘレトの言葉第一章十二節から」^{きゅうやくせいしょ}

12 わたしコヘレトはイスラエルの王としてエルサレムに^{おう}いた。^お13 天の下に起こることをすべて知ろうと熱心に探究^{ねつしん たんきゅう}

し、知恵を尽くして調べた。^{ちえ}神はつらいことを人の子らの務^{かみ}めとなさったものだ。^{しん}14 わたしは太陽の下に起こることを^{たいよう}すべて見極めたが、見よ、どれもみな空しく、^み風を追うよう^{かぜ}なことであつた。^お

18 太陽の下でしたこの労苦の結果を、わたしはすべてい^{たいよう}とう。後を継ぐ者に残すだけなのだから。^{あと つぎ}19 その者が賢者^{けんじや}であるか愚者であるか、誰が知ろう。^{だれ}いずれにせよ、太陽の下^{たいよう}でわたしが知力を尽くし、^{ちりよく}労苦した結果を支配するのは彼な^{ろうく けっか しはい}のだ。これまた、空しい。^{むな}20 太陽の下、^{たいよう}労苦してきたこと^{ろうく}のすべてに、わたしの心は絶望していった。^{こころ ぜつぼう}21 知恵と知識^{ちえ ちしき}と才能を尽くして労苦した結果を、^{さいのう}まったく労苦しなかった^{ろうく}者に遺産として与えなければならぬのか。^{いさん}これまた空しく^{あた}大いに不幸なことだ。^{ふこう}22 まことに、人間が太陽の下で心^{にんげん たいよう}の苦^{くる}しみに耐え、^た労苦してみても何になろう。^{ろうく}23 一生、^{いっしょう}人の務^{ひと つと}めは痛みと悩み。^{いた}夜も心は休まらない。^{よる こころ やす}これまた、^い実に空^{じつ かな}しいことだ。

朗読者 「旧約聖書を終わります」^{きゅうやくせいしょ}

詩編^{しへん}

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱えます。

第九十五編 一節〜七節^{だい へん}

1 主に向かつて喜び歌い＝ 救いの岩に声を上げよう
2 感謝に満ちてみ前に進み＝ 賛美の歌で神をたたえよ

う

3 主は偉大な神＝ すべての神にまさる王

4 地の深みは主のみに＝ 山の頂もまた主のもの

5 海は主のもの、主はこれを造られた＝ 乾いた地も主

は造られた

6 身を低くして伏し拝み＝ 造り主、主のみにひざま

ずこう

7 主はわたしたちの神、わたしたちは神の民＝ わたし

たちはその牧場の民、そのみ手の羊

使徒書

朗読者 「使徒書はコロサイの信徒への手紙第三章十二節から」

12 あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されて
いるのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身
に着けなさい。13 互いに忍び合い、責めるべきことがあつ
ても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してください
ように、あなたがたも同じようにしなさい。14 これらすべ
てに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させ

るきずなです。15 また、キリストの平和があなたがたの心
を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、
あなたがたは招かれて一つの体とされたのです。いつも感謝
していなさい。16 キリストの言葉があなたがたの内に豊か
に宿るようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、諭し合
い、詩編と賛歌と霊的な歌により、感謝して心から神をほ
めたたえなさい。17 そして、何を話すにせよ、行うにせよ、
すべてを主イエスの名によって行い、イエスによって、父
である神に感謝しなさい。

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ルカによる福音書第十二章十三節以下に記され

た主イエス・キリストの福音。

主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

13 群衆の一人が言った。「先生、わたしにも遺産を分けてくれるように兄弟に言ってください。」14 イエスはその人に言われた。「だれがわたしを、あなたがたの裁判官や調停人に任命したのか。」15 そして、一同に言われた。「どんな貪欲にも注意を払い、用心しなさい。有り余るほど物を持っているても、人の命は財産によってどうすることもできないからである。」16 それから、イエスはたとえを話された。「ある金持ちの畑が豊作だった。17 金持ちは、『どうしよう。作物をしまっておく場所がない』と思い巡らしたが、18 やがて言った。『こうしよう。倉を壊して、もっと大きいのを建て、そこに穀物や財産をみなしまい、19 こう自分に言ってやるのだ。』「さあ、これから先何年も生きて行くだけの蓄えができたぞ。ひと休みして、食べたり飲んだりして楽しめ」と。』20 しかし神は、『愚かな者よ、今夜、お前の命は取り上げられる。お前が用意した物は、いつたいだれのものになるのか』と言われた。21 自分のために富を積んでも、神の前に豊かにならない者はこのとおりだ。」

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」